

地域にあって、地域で使う、コミュニケーション支援ボード

「わたしの伝えたいこと」

コミュニケーション支援ボード

クイック・マニュアル

主催：全国知的障害養護学校長会・財団法人明治安田こころの健康財団

1. コミュニケーションのバリアフリーを目指して

社会の中で生活している私たちは、主に話し言葉によって自分の気持ちや状態、そして願望・要求を周囲の人に伝え、周囲の人々からの適切なサポートを受けながら生活しています。しかし、知的障害のある人々にとっては、その話し言葉によるコミュニケーションの困難な場合が多いのです。このような話し言葉を中心とするコミュニケーションのバリアは周囲の人々に分かりにくいいため、他の障害（視覚障害の人や高齢者など）の人が社会で生活していくときに直面するバリアに比べ、理解されにくいものと思われれます。一方、視覚障害のある人たちのために点字ブロックが設置されていることなどは私たちもよく知っていますし、高齢の人たちに対しては、負担が少なく安全で豊かな生活を提供する（バリアフリー）ために、段差をなくすこと、手すりをつけることなどは既に当たり前のこととなっています。

ところが、話し言葉によるコミュニケーションにバリアのある知的障害のある人たちが、負担が少なく安全で豊かな生活をサポートするために必要となるバリアフリーの試みを、一般の人々が目にすることは残念ながらありません。そこで私たちは、段差をなくすこと、車椅子を使うこと、点字を使うことと同じように、話し言葉によるコミュニケーションにバリアがある知的障害のある人たちと周囲の人たちとの間をつなぐ話し言葉に代わるツール（「コミュニケーション支援ボード」）を用意し、地域のさまざまな場所に設置してもらうことで、知的障害のある人たちのバリアとなるコミュニケーションの問題の改善を目指しています。さらに、この普及活動によって知的障害のある人たちへの社会的関心や理解が一層深まり、社会の人たちの知的障害のある人に対する意識のバリアもなくすことも意図しています。

2. 「コミュニケーション支援ボード」を使うにあたって

1) 基本的な使い方


- ・ 知的障害があるなどのために話し言葉でのコミュニケーションが苦手な人たちとのコミュニケーションを助けるためのものです。
- ・ 言葉でうまく伝え合えないとき、そのやりとりの最中にこの「コミュニケーション支援ボード」を差し出し、その人に絵を指さししてもらいます。
- ・ 「コミュニケーション支援ボード」を使うときは、多くの言葉を使うことは止め、多少ゆっくり見せて指さしできるように待つてあげてください。

- ・「コミュニケーション支援ボード」が分からなくても、実物や写真なら分かる場合があります。また、文字や絵を書くことができる人もいます。
- ・指さしすることが困難な人には、こちらが指さしして聞いてあげてください。

2) マニュアル

(1) こんな時、「コミュニケーション支援ボード」の出番です

＜当事者が困っている＞



困っている。
そわそわしている。
ぶつぶつ言っている。

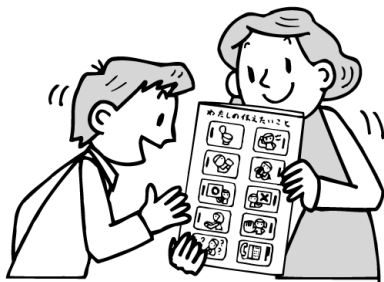
＜対応する側が困っている＞



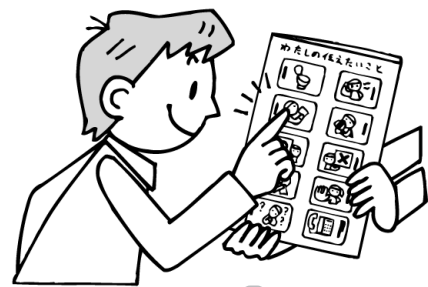
言葉の意味が通じない。
何を言っているのか分からない。
何かを伝えたいことは分かる。

(2) 「コミュニケーション支援ボード」を利用しましょう

「わたしの伝えたいこと」の表紙を見せてあげる。



●自分で絵を指さす



指さした内容に応じてあげる

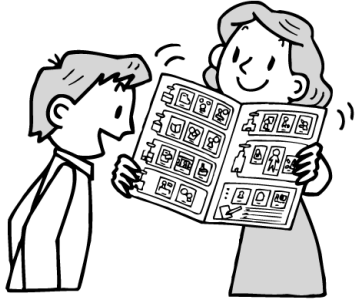
■指させない場合

- ・「なに？」と問いかけて、指さしの見本を示してあげる。
- ・「トイレ？」「のみたい？」のように、表紙の絵の中から推測されることを指さしして聞いてあげる。
- ・それでもうまくいかなかったら、一つずつ指さしして聞いてあげる。

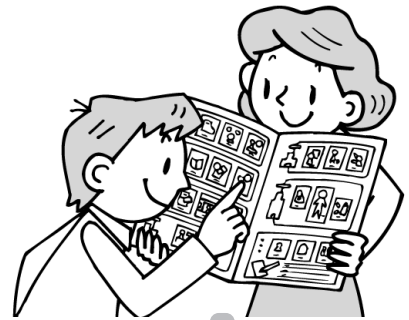


(3) さらに、具体的なことを伝えたいときには

「コミュニケーション支援ボード」の
場面別（見開き）を見せてあげる。



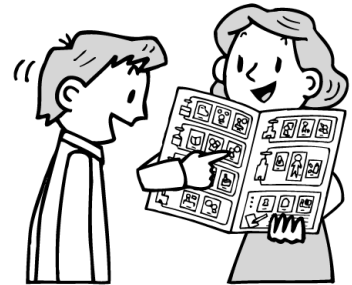
●自分で絵を指さす



指さした内容に応えてあげる

■指させない場合

- ・「なに？」と問いかけて、指さしの見本を示してあげる。
- ・「くすり？」「レジ？」のように、推測されることから指さしして聞いてあげる。
- ・それでもうまくいかなかったら、一つずつ指さしして聞いてあげる。



(4) 実際の場面での活用例

① 駅で：

何か困っているようすの人がいます。駅員さんが「コミュニケーション支援ボード」を差し出し「どうしました？」と聞くと、「トイレ」を指さすことができ案内してもらえました。



② レストランで：

食事をしている人が何だかソワソワしています。店員さんが「コミュニケーション支援ボード」を差し出し「どうしました？」と聞くと、ボードの水を指さしすることができ、レストランで水のおかわりがもらえました。



③ 病院で：

看護師さんが「コミュニケーション支援ボード」を差し出し「どこが痛いの？」と聞くと、ボードの体の部位を指さしすることができ、診察の場へ連れて行ってもらえました。



④警察で：

警察官が紙と鉛筆と「コミュニケーション支援ボード」を差し出し、「お名前は？」「お家はどこですか？」と聞くと、名前や住所を書いて伝えることができ、保護者に連絡してもらえました。

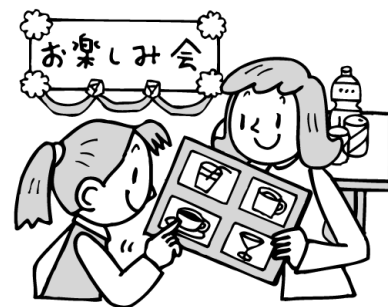


(5)「コミュニケーション支援ボード」の活用について

- ・ 支援ボードの絵の枚数には制限がありますが、それぞれの場所で必要な絵を作成し、この「コミュニケーション支援ボード」の基本パターンに付け加えるなどして使ってください。
- ・ 言葉によるコミュニケーションが困難だけでなく、絵によるコミュニケーションも難しい人がいます。そんな場合には、実物を示して「どっち？」と聞いて選択してもらう方法を試してみてください。
- ・ どんな飲み物が欲しいかなどの選択場面において、絵による選択肢を用意してあげることで、言葉による意思の伝達の難しい人自らが選択し意思を伝えることを可能にしていきます。
- ・ 絵がコミュニケーションの主な手段になっている人の場合には、併せて本人専用の携帯用を作成すると一層さまざまな場面で意思を伝えることが可能になるでしょう。
- ・ 通常の学級の生徒と養護学校の生徒同士の間で、絵によるコミュニケーションの手段を使えばやり取りすることが可能だと分かると、子ども達は積極的に活用し始め、交流の機会をお互いに一層深めることになるでしょう。
- ・ この支援ボードは、外国の人など言葉によるコミュニケーションの困難な様々な人々との間でも活用することができます。

①お楽しみ会で：

好きな飲み物を選べる場面がきた時、お友達がいろいろな飲み物の写真を貼ったボードを差し出し、「どれにする？」と聞くと、好きな飲み物を指さして選ぶことができ、大好きなジュースがもらえました。



②学童クラブで：

次に何をするか、みんなで決める場面がきました。司会のお友達がいろいろな遊びをカタログにしたボードを差し出し、「何がしたいの？」と聞くと、言葉を使える子ども達と同じように、絵を指さしすることで自分の意見を伝えることができました。

